

すごい point

- ・可児市にはたくさんの工場があり、いろいろなものがつくられているよ。
- ・可児市でつくられた製品が日本の産業を支えているよ。

◎岐阜県第3位の工業地域

わたしたちの住んでいる可児市には、自動車の部品をつくっている工場、ティッシュペーパーなどの紙製品をつくっている工場や、飛行機の部品をつくっている工場など、いろいろな工場があります。

可児市では、明治時代に広見のまちにたくさんの製糸工場せいしこうがつくられました。また昭和10年代には、土田に航空機こうくうきの部品をつくる工場もできました。このように、可児市には昔からものづくりの基礎きそがあったのです。

そして昭和50年代になると、たくさんの工場が郊外こうがいにつくられるようになり、今では可児市は岐阜県で第3位の工業地域こういぎになっています。



可児工業団地

岐阜県の製造品出荷額等 順位(令和3年)

順位	市名	出荷額
1位	各務原市	7214億円
2位	大垣市	5364億円
3位	可児市	4645億円
4位	関市	3823億円
5位	中津川市	3815億円

出典：経済産業省「令和3年経済センサス」

◎輸送に便利な道路

可児市には、ほかの都市に通じる主要な国道や高速道路が通っています。そのため、自動車をつくる大きな工場がある豊田市や、外国に製品を輸出できる港のある名古屋市にも短時間で行くことができます。

製造業のさかんな原材料や製品の輸送に便利な場所なので、アクセスのよさに注目した多くの企業きぎょうが、可児市に工場をつくりました。

◎広い工業団地

たくさんの工場が1か所に集まっている場所を、工業団地といいます。可児市には、可児工業団地や二野工業団地にの、柿田流通・工業団地かきだ、可児御嵩インターチェンジ工業団地などがあります。

昭和47年（1972）に造成工事が始まった可児工業団地は、バンテリンドームナゴヤ28個分の広さがあり、現在は約50の会社が集まる東海地方でも最大級さいだいきゅうの工業団地です。

ほか3か所の工業団地は、東海環状自動車道とうかいかんじょうじの可児御嵩インターチェンジみたけはっせんに近く、これからの発展が期待されています。



二野工業団地



ヤイリギターの製品と製作の様子

「一五一会 奏生(かない)」

すごい point

- ・世界に通用する高品質^{こうひんしつ}のギターをつくっているよ。
- ・職人さんがハンドメイド(手づくり)で、ていねいに作りあげているよ。

◎ヤイリギターとは

ヤイリギターは、下恵土^{しもえど}にあるギターをつくる会社です。昭和10年(1935)に創業者^{そうぎょう}の矢入儀市^{やいりぎいち}さんが、矢入楽器製作所^{やいりがっきせいさくじょ}として楽器づくりをはじめました。

儀市さんのあとをついだ矢入一男^{やいりかずお}さんは、アメリカで本格的なギターづくりを学んだ後、昭和40年(1965)に株式会社ヤイリギター^{せつりつ}を設立しました。一男さんは50年以上にわたって、こだわりのギターづくりを続け、平成17年(2005)にはとてもすぐれた技を持つ「現代の名工^{めいこう}」として国の表彰^{しょう}を受けています。

◎こだわりのギター作り

ヤイリギターでは「オール・メイド・イン・ジャパン(すべて日本製)」にこだわっていて、ギターづくりのすべての工程^{こうてい}を、可児市の工場でおこなっています。

また職人さんの「手づくり」にもこだわりがあります。工場では、約30人の職人さんが、機械をなるべく使わずに、手作業でギターをつくっています。

職人さんは、木材をていねいに選び出し、その木の特徴^{とくちょう}に合わせて加工していきます。「手づくり」のギターは、一日20本ほどしかつくれません。

◎世界的なブランドとして

ヤイリギターでは、現在も伝統的^{でんとうてき}なアコースティックギターを中心に、世界一簡単に弾ける「一五一会^{いちごいちえ}」といった独自の楽器を生み出しています。

時間をかけてていねいにつくられたヤイリのギターは、その品質^{ひんしつ}と良い音色^{ねいろ}によって、世界じゅうから高い評価^{ひょうか}を受けています。そのため、たくさんの有名なミュージシャンが使用しています。世界に通用する一流のギターが「メイド・イン・可児」なのです。

すごい point

- ・可児の^{さといも}里芋やごぼうは、昔からつくられていたんだよ。
- ・今も農産物ブランド「可児そだち」として売られているよ。

◎^{さといも}里芋（タダイモ）

昔、可児では「里芋」のことを「タダイモ」と呼んでいました。

今渡、川合、土田、下恵土など、^{しもえど}木曽川沿いの^{きそ}黒^ぞ土^{くろ}の畑でつくられた里芋は、とてもおいしいと^{ひょうばん}評判で、一部は関西方面にも売りに出されていました。

現在、可児市内では、「^{じゅく}さといも塾」という団体が、^{ちいき}地域おこしのために里芋の^{さいばい}栽培をしています。また、市内の会社やお店では、ラーメン・うどん、^{しょうちゅう}焼酎、コロッケ、ギョーザ、ドーナツ、アイスなど、可児の里芋を使用した商品を開発販売しています。これらの商品は、可児市産で品質の良い農産物ブランドである「可児そだち」にも^{にんてい}認定されています。

可児市で生産された里芋は、みなさんの給食にも使われています。



里芋

◎^{すげかり}菅刈ごぼう（ゴンボ）

昔、帷子の菅刈地区では、ごぼうの生産がさかんでした。可児では、ごぼうのことを「ゴンボ」ともいいます。

菅刈地区の畑の土は、他の地区と比べても深く、^{さいてき}深いところまで根を張るゴボウのような野菜に最適でした。

昭和20年代の^{さいせい き}最盛期には、40軒ほどの農家で「菅刈ごぼう」がつくられ、名古屋や関西地方に出荷されていました。

菅刈ごぼうは、香りがよく、おいしい^{でんとう}伝統野菜として有名でしたが、畑やつくる人が^へ減り、だんだんとつくられなくなっていきました。

可児の特産物であった菅刈ごぼうを守り、たくさんの人に知ってもらおうと、可児市シルバー人材センターの人たちが栽培していた時期もあり、道の駅などで販売されたこともありました。

近年は栽培する人がほとんど居なくなり、まぼろしの特産品となっています。



菅刈ごぼう